

# 小海町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョンの概要

## ◆ 小海町人口ビジョンについて

### ○ 計画の目的、位置付け

小海町人口ビジョンは、小海町総合戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上での基礎情報として位置づけられます。

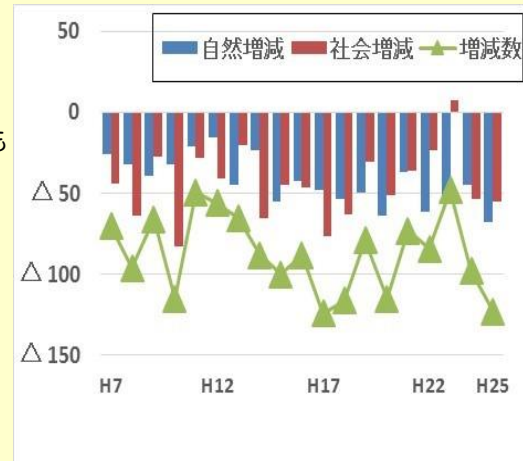
小海町人口ビジョンは、本町の人口の現状を分析し、人口に関する住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口展望を提示するものです。

### ○ 計画期間

人口ビジョンの対象期間は、国においては平成 72 年（2060 年）を基本としていますが、地域の実情に応じた期間として、小海町においては、国立社会保障・人口問題研究所の推計期間である平成 52 年（2040 年）を目途とします。

## ◆ 小海町の人口の現状と課題

○ 町の人口は、年々減少し続けており、平成 22 年の人口は 5,180 人です。人口予測では、平成 52 年には 2,777 人と推計され、平成 22 年に対し 46.4%減少するものと見込まれています。また、平成 52 年の年齢構成別人口では、年少人口、生産年齢人口はますます減少し、それぞれ 10%、50%を切り、老年人口については、構成比では 50%を超え、少子・超高齢社会が進展するものと予測されます。



○ 自然増減では、平成 3 年までは概ね出生数が死亡者数を上回っていましたが、平成 4 年以降は死亡数が出生数を上回り自然減となっています。また、合計特殊出生率は、平成 20 年からは微増に転じましたが、人口の増加につながらない結果となっています。

○ 社会増減では、ほとんどの年次で転出が転入を上回り社会減が続いています。減少人数は、自然増より上回っていることから、人口減少の要因は転出超過（社会減）によるところが大きいといえます。

## ◆ 目指すべき将来の方向

- ◇ 若い世代の就労と、結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまちを実現  
生産年齢人口の減少と将来的な年少人口の減少を克服し、安定した人口構造を維持していくため、特に次代を担う若い世代の希望がかなうような、雇用・就労環境の確保や結婚・妊娠・出産・子育てすることができる社会環境を実現します。
- ◇ 小海町への人の流れをつくり、人口流出を抑制  
小海町の魅力を積極的に発信して交流人口を増やすことで、地域の活性化や移住につなげることとともに、特に、若年層の人口流出を抑制するための、U・I・J ターンの促進や、今後も小海町に住み、働き、豊かな生活を送りたい人を増やし、その希望をかなえられる社会環境を実現します。
- ◇ 地域が連携し安心して暮らし続けられるまちを実現  
人口減少・高齢社会など時代を見据え、中核的な構想として「コンパクト・タウン・こうみ」を推進し、機能的・効率的で利便性をいっそう高める持続可能な社会基盤を構築するとともに、共通する課題については、近隣市町村と連携して取り組み、幅広い分野で広域連携の可能性を探り、安全で、安心して住み続けられる社会を実現します。

## ◆ 人口の将来展望

●人口減少を克服するために、本町が目指すべき将来の方向に向かって、2040 年の目標人口 3,050 人を達成するために、まちの総力をあげてチャレンジします。

2040（平成52）年： 3,050 人程度と 設定します

### 《将来展望での仮定》

自然増減：2020 年まで出生数維持のために、必要な合計特殊出生率を 1.71 として、1.71 を 2040 年まで維持します。

社会増減：平成 32 年以降、5 年ごとに転入人口 15 人、転出抑制人口 17 人政策誘導により、転出人口を縮小し人口の増加に努めます。

